

第6次西粟倉村総合振興計画（後期） パブリックコメント意見及び回答一覧（実施期間：3月2日～13日、意見応募7名21件）

番号	日付	該当箇所	意見	回答	計画書反映
1	3月11日	人口ビジョン	「2050年に1,000人を保つ」という目標については、なぜ1,000人なのか、その理由もあわせて書いたほうがよいと思います。817人ではできず、1,000人ならできることが何かによって、取るべき行動も変わるからです。	2050年に1,000人目標については、次の2つの観点から算出しており、計画書においてもその説明を追記致しました。 ①様々な取組ができる活力のある状態（現状の人口構成）を維持 ②頑張れば手が届く（実現可能性のある）目標を設定する	有 P10,11
2	3月11日	柱1：しごと 林業・木材産業振興	「森林の Re Design や持続可能な森林づくりを、村外企業と連携しながら具体化」とありますが、土台ができた今だからこそ村内企業を中心に進めるべきで、そう明記して欲しいと思います。村外企業との連携はよいことですが、その場合においても村内への企業誘致、または村内での新たなJVの立ち上げを重視するべきだと思います。	ご記載のとおり、取組の中心は村内事業者となると認識しております。 そのため、「百年の森林事業の基盤を維持しつつ、森林資源全体の価値向上を図るために、森林のRe Designや持続可能な森林づくりを進めていきます。取組を進めるに当たっては、村内事業者を取組の中心として、村外企業との連携なども官民連携で進めていきます。」という記載に変更します。	有 P15
3	3月11日	柱3：未来への投資 生物多様性推進	教育・福祉その他の分野で活動・村の活気の下支えをしていると思います。具体名が出てきていませんが、一般財団法人 ネイチャープレナージャパンだけ明記されています。村民の方にも知ってもらうためにもいまある活動をきちんと整理するためにもほか項目でもプレイヤーの名前を出すことが重要ではないでしょうか？	ご記載のとおり、村の活気を支えて頂いているのは、教育・福祉をはじめ多く皆さまのお力と認識しております。 一方で、掲載する尺度も設ける必要もあるため、村が主導して設立に関わった組織について計画書において記載をさせていただきます。	有 P16,35
4	3月12日	柱3：未来への投資 西粟倉村一貫教育の推進 Uターン促進	村民アンケートにおいて「高校への通いやすさ」の満足度はわずか1.9%であり、全項目中で最下位となっています。また、村の弱みとして「高校がない」「高校の選択が少ない」という意見が多数挙がっています。 人口ビジョンにおいて20～30代女性の社会減が最重要課題と位置づけられていますが、子どもが中学を卒業したら村を離れざるを得ないような構造的な問題は、若い世代の定住意向（39歳以下で約4割）が上がらない大きな要因だと思います。高校に関する具体的施策の計画が必要ではないでしょうか。 例えば、「近隣高校との連携協定による通学・学習環境の充実」、「通学費補助の拡充や下宿支援の強化」、「通信制・オンライン高校の活用支援」、「将来的な村内での高校相当の学びの場（フリースクール型・サテライト校型等）の検討」が考えられます。いずれも5年間の計画期間内に検討あるいは着手が可能であり、少なくとも行動指標として「高校通学環境の改善に向けた検討・実施」を設定すべきと考えます。 高校問題は、教育分野単体の問題ではなく、村にとって、Uターン促進施策や、子育て支援にもまたがる大きな課題であると思います。短期から長期の視点で効果的な施策の計画立案をぜひお願いします。	まず、Uターン施策についてですが、Uターン施策について言及するのは本計画からとなり、まずはベースとなるコミュニティづくりや情報提供を行うこととしています。 また高校進学に関する現状の施策としては、月2万円の就学支援金や県境を超えて通学が出来るようにするなど、通学への支援を主に行っている所です。 その上で、高校問題については、教育分野単体の問題ではないと捉えており、西粟倉村においては進学先の多様化が進み、この流れは今後も続くとも考えております。 これらを踏まえて、ご記載頂いた方策も選択肢として計画立案していくことは必要と認識しておりますが、現段階で具体を言及するのは難しく、検討・議論の機会を作る所から着手していく形となります。計画書においては、Uターン施策として捉えていくことを追記致します。 最後に補足として、後期計画を策定するに当たり、具体施策につき1つの目標値または行動指標を設定するようしております。また、総合計画は方向性を示すもので個別具体まで言及できないことをご理解をいただけますと幸いです。	有 P32

番号	日付	該当箇所	意見	回答	計画書反映
5	3月11日	柱3：未来への投資 生物多様性推進	「人工林を自然林に戻した面積」では、広さだけを見る目標になり、森林の状態のよさまでは分かりません。たとえば、広葉樹が5種以上生えている森林の面積など、森林の質も分かる目標にしたほうがよいのではないのでしょうか。また、「村の自然環境の保全」については、生物多様性に関する影響が特に大きい鹿による被害の低減についても言及すべきです。	まず、目標値「人工林を自然林に戻した面積」に関して、村としての状況も出来る環境にあることから、ご提案頂いた案を目標として設定致します。 また、鹿による被害の低減ですが、全国的に対策に苦慮している、村単独で解決出来ない問題である、など多くの課題がありますが、知見を有する方からアドバイスを頂きながら対策を模索して参ります。	有 P34
6	3月11日	柱3：未来への投資 シティプロモーション推進	SNSの活用もとても重要ですが、村のウェブサイトの整理やメンテナンスも同じように重要です。情報の"発信"を一つにまとめるだけでなく、情報そのものをきちんと管理し、整理することを全体で進める必要があるのではないのでしょうか。	ご記載のとおり、村内・村外双方に発信・情報提供をしていく上で情報を体系的に整理する必要があると認識しております。 そのため、「守りの施策3－（2）行政組織運営」に③村民向け情報発信の項目を追加し、情報を体系的に整理する旨も記載します。	有 P44
7	3月7日	柱3：未来への投資 シティプロモーション推進	広報紙に関する記載がないが、村民への情報伝達手段として重要で、高齢者にとっては広報紙を読むことが頭の体操にもなると思う。また、最近は誤字が多かったり、簡単に作ろうという風を感じられる。	ご記載のとおり、広報紙についても村の取組や各種手続きをお知らせする重要な手段と捉えており、広報紙を含めた村民向けの情報発信についての施策を計画書に追記しております。 また、広報紙の作成については、今年度からカラーにするなど改善をしておりますが、正確に分かりやすく伝えられるように努めて参ります。	有 P44
8	3月13日	柱1：しごと 農業振興	有機農業の推進を進める一方で、肥料の多くが仕入れによるため原価高になっている。既存の畜産業をはじめ養鶏業も新たに始まったため、村内の資源循環による有機「的」農業を推進したい。	農業振興における文脈とともに、「柱3：未来への投資 1－（2）生物多様性保全」において、資源循環について記載しております。検討ベースからとなりますが、村内事業者の皆さまのご意見も伺いながら、有機農業推進と併せて村内での資源循環も進めていきたいと考えております。	
9	3月12日	柱1：しごと 農業振興	西栗倉村は林業と観光が中心ですが、村の強みであるきれいな水を活かした事業をさらに展開できるのではないのでしょうか。具体案として、以下の検討を提案します。 ・飲料水の製造・販売：村の水はおいしいとよく聞くため、ブランド化の可能性がります。 ・わさび栽培・加工：収益性が期待でき、加工など多様な展開が可能です。 ・水耕栽培（無農薬・低病害）：健康志向の需要と相性がよく、事業化の可能性を調査していただきたいです。 ・高純度水の製造・販売：用途が幅広いため、事業化の可能性を調査していただきたいです。 まずは市場調査や試験生産など、小さく始めて検証する形で進めると良いと考えます。	有機農業や農産品の付加価値向上を進めるにあたり、計画書記載の「軸となる組織」において、既存の作物に加えて新しい商品作物も検討事項となると考えております。 検討や実証を進めていくに当たっては、村民の皆さまと一緒に進めていくことも出て参りますので、その際はぜひご協力をお願いいたします。	

番号	日付	該当箇所	意見	回答	計画書反映
10	3月11日	柱1：しごと 起業・社内ベンチャー支援	「一人ひとりへの支援を充実させる」ことには賛成です。ただ、そのことを理由に、移住者数や起業候補者数が減ってしまわないか心配です。西粟倉の強みは、若い世代が一定数いること、そして、たとえ定住しなくても、その人たちとのつながりが地域の財産になることにあるのではないのでしょうか。Uターンに限らず、"よい挑戦だから支援する"のではなく、"挑戦しやすくなるように支援する"という考え方も検討してほしいです。	村としても人口維持のために定住者を増やす必要はありますが、西粟倉とつながりのある方（関係人口）の重要度が今後高くなると考えております。 また、挑戦のフィールドとして西粟倉に関わりを持って頂く方が村の活力となっているとも捉えており、より挑戦しやすい環境づくりも検討して行くことが必要と考えています。	
11	3月11日	柱1：しごと 関係人口の創出・拡大	「アプリ村民票」は、村外への発信だけを目標にしているように見えますが、村内でも広く使われるべきではないのでしょうか。村内の住民でも村の取組を知らないという声はよく聞くため、そのような人たちへの活用にも意味があるはずで。村民や村内企業に親しまれてこそ、はじめてアプリとしての効果が出るのではないかと思います。	本計画における「アプリ村民票」は、村外への情報発信に加え、村内における情報共有や関係性の強化にも資するものであり、村民や村内企業に広く活用され、親しまれることで、より高い効果が発揮されるものと考えます。 一方で、アプリ村民票は関係人口創出における1つのツールであるという側面も持っており、関係人口と村民がどのように関わっていくのかという観点からもアプローチしていく必要があるとも考えています。	
12	3月13日	柱1：しごと 起業・社内ベンチャー支援 柱2：ライフスタイル 住宅の確保	地域おこし協力隊インターン制度も始まり、大学生や専門学生の受け入れも今後活発になる。一方でシェアハウスが少なくインターン受け入れ時に住居問題が大きな懸念である。家賃を抑えた短期滞在型シェアハウスの開発も求む。	住宅整備を検討していく中で、シェアハウスも選択肢の一つとなると考えますが、需要と供給のバランスや民間活力など村全体の状況を見て検討して参ります。	
13	3月11日	柱3：未来への投資 西粟倉村一貫教育の推進	子どもだけでなく、大人の学び直しも大切にするべきではないのでしょうか。特に西粟倉では、ICTが身近である大人の数が少ないように感じるので、社会人に向けたICT教育は効果が高いように思います。多様な人材がいることを村の強みにするためには、大人・教育する側を育てることも取組の中に入れるべきです。	生涯学習の観点から、あわくら会館におけるイベント・講座において、ICT・デジタルに関する内容を増やしていきたいと考えています。 また、学校現場においてもICT活用を進めている中で、大人と子どもと一緒に学ぶ機会なども検討していきます。	
14	3月12日	柱3：未来への投資 西粟倉村一貫教育の推進	「英語やICT教育など成長に応じた体系的な学びを提供していきます」と記載がありますが、具体的にどのレベルを目指すのか、外部人材をどう確保するのが明確ではないように見えます。目標指標が「地域の人に参加した活動回数」のみでは、教育の質そのものを評価することが難しいと感じます。 そのため、量的な指標に加えて、教育の成果に関する指標を補完的に設定することを提案します。一例ですが、児童・生徒のICT活用能力に関する自己評価アンケート、英語検定等の受験・合格状況、あるいは保護者の教育環境に対する満足度調査などが考えられます。前期計画で「教育環境に対する不満足度が悪化傾向」との評価がなされている以上、後期計画では質を把握する仕組みが必要ではないのでしょうか。	目標として設定している「地域の人に参加した小中学校の活動及び授業数」については、あわくら未来学の目的の一つが地域と関わることであるため、活動及び授業数が質も兼ねていると捉えております。 一方で、ご記載頂いた英語やICT教育など質の評価は重要であり、毎年度児童・生徒、保護者を対象とした学校評価アンケートを実施し、その結果を元に改善を図っている所ですが、満足度調査の結果は真摯に受け止めて参ります。 また、後期計画において放課後の環境整備の方向性を新たに打ち出しており、子どもたちの教育環境を広く捉えて学びの多様性と質を高めていきたいと考えております。	

番号	日付	該当箇所	意見	回答	計画書反映
15	3月12日	柱3：未来への投資 西粟倉村一貫教育の推進	<p>中学高卒業後の高校進学について、通学や生活面の負担が大きいと感じます。</p> <p>西粟倉村での中高一貫化を是非検討していただきたいです。</p> <p>すぐに制度化が難しい場合でも、段階的に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校進学に伴う負担軽減策（通学支援・寮・下宿支援） ・近隣自治体・学校との連帯強化 <p>などの施策を進め、安心して子育てできる環境を整えてほしいです。</p>	<p>まず、中高一貫化については村内に高校がないことから実現は困難となりますが、村内高校がないという状況の中での対策を検討して参りたいと考えております。</p> <p>高校進学につきましては、月2万円の就学支援金や県境を超えて通学が出来るようにするなど、通学への支援を主に行っている所です。</p> <p>一方で、進学先の多様化が進み、この流れは今後も続くと考えられる中で、様々な可能性を検討して参りたいと考えております。</p>	
16	3月7日	守りの施策 医療・介護	<p>看取りについて、岡山県の柴田先生が作られた言葉で、自分も単身世帯になってよく考えるようになった。先日はエンディングノートの講座に参加したが、村における看取りのあり方が良くわからないと感じる。</p>	<p>看取りについては、ご高齢の方の生活における大切な考え方であると捉えています。看取りを含めた高齢期の生活については、サービスの提供体制を検討していくことに加えて、ご参加頂いたエンディングノートの講座のように情報をお伝えしたり、ご自身やご家族のことを考えて頂く機会を設けていくことも大切と考えています。</p>	
17	3月12日	守りの施策 インフラ・交通	<p>西粟倉村で安心して生活するため、日常の買い物や食事ができる拠点の整備を希望します。</p> <p>取り扱い品目として米・食品・日用品・文房具など生活必需品が揃うと助かります。価格が手ごろであれば利用者も増えると考えます。</p> <p>あわせて、外食ができる場所（寿司、ピザ、ハンバーガー、焼肉、鍋、うどん等）があると、住民の利便性向上だけでなく、来訪者の満足度向上にもつながると思います。</p> <p>まずは小規模（曜日限定の営業、テナント誘致、既存施設の活用から始め、需要を見ながら拡充する方法も検討していただきたいです。</p>	<p>買い物や食事に関しては、都市部のような利便性を実現することは難しく、村内にある商店や飲食事業者とのバランスを考慮する必要があるという前提はありますが、今回の計画策定においても多くのご意見を頂いた課題であると認識しております。</p> <p>そのため、「柱1しごと：3－（1）観光振興」において記載している、あわくらんど・旬の里の再整備検討において、観光客などの利用に加えて、住民生活における機能面も検討項目として進めて参りたいと考えております。</p>	
18	3月11日	守りの施策 インフラ・交通	<p>インフラの維持については、一部の舗装された林道を未舗装に戻すことなど、管理する範囲を少しずつ見直す検討を始めるべきではないでしょうか。5年間で実際にその見直しを進めるのは難しいかもしれませんが、少なくとも、そのための議論は始めるべきだと思います。</p>	<p>林道に関しては、百森事業の施業に合わせた林道管理、ライフサイクルコストを考慮した維持管理、という両面から林道も考えていく必要があると考えております。具体的な手法については、ご記載のとおり議論をしていきたいと考えております。</p>	
19	3月11日	資料編	<p>難しいことは分かりますが、策定審議会では、もっと具体的な計画についての議論を増やすことはできなかったのでしょうか。審議委員それぞれの目標発表なども興味深いものでしたが、審議会の目的範囲から外れる内容だったとも取ることができるよう思います。</p>	<p>今回の策定審議会においては、これまでの計画策定プロセスを鑑み、村の現状に対する委員の皆さまの認識や想いをお聞きし、そこから議論を広げる形をとらせて頂きました。そのため、ご指摘のとおり個別具体の議論には至っていない所もあると認識しております。</p> <p>一方で、計画策定中に実施した村民会議を発展させる形で、ある程度テーマを絞って施策の進め方や方向性について議論をする場を設ける予定としております。</p>	

番号	日付	該当箇所	意見	回答	計画書反映
20	3月11日	全般	総合振興計画が個々の事業を述べるものではないことは承知していますが行動指標がどのような活動によって変化を生めるのかについては具体的な事業、業務にまで落とし込むことが重要かと思えます	ご記載のとおり、目標値や行動指標、計画書に記載している方向性を各種業務に落とし込んでいく事は重要と考えております。また、1つの内容に部署を超えた複数の業務が関わってくるため、それらを併せて進捗を把握しながら計画を進めていきたいと考えております。	
21	3月11日	全般	子ども村民会議を行なった結果、どのような政策に反映されているかがわかりませんでした。「開催するならばこのような政策に活かしました」を参加した子どもたちにきちんとフィードバックできるかたちで成果とすることも大切と思えます。教育・生涯学習政策も大人目線に感じています。	子ども村民会議において頂いた意見は、計画策定においてどのような形で反映させたのか、また反映させなかったのかを整理した資料を作成し、計画書と併せて公表をしたいと考えております。 また、計画書における記載は村として実行していくこととなるため、大人目線での記載となっていることをご理解いただけますと幸いです。	